

我が子の成長についての満足度と子どもの意識

かつて道徳授業地区公開講座にお招きいただいた際、御紹介していたデータがあります。「家庭教育に関する国際比較調査」（平成5・6年度文部省）のうちの「子どもの成長についての満足度」です。この調査以降、同様の調査は行われていません。

調査対象は、0歳から12歳の子どもと同居している親およそ1,000人です。

アメリカは0歳から3歳までが93.1%、その後ゆるやかに減少するものの、10歳以降再び増加し10歳から12歳では84.5%になります。

タイと日本は、0歳から3歳までが68.5%と68.7%でほぼ同じですが、その後タイは増加の一途をたどり74.1%になる一方、日本は減少し続け36.3%まで落ち込み、対象国6か国中最下位です。（韓国52.9%、イギリス83.3%、スウェーデン82.7%）

もう一つ、気になるデータがあります。

平成30年度（2018）、内閣府は「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」を実施しました。対象は各国満13歳から29歳までの男女で、1,000サンプル回収を原則とした調査です。その結果によれば、「私は、自分自身に満足している」という設問に「そう思う」と回答した割合は、アメリカ86.9%、韓国73.5%、イギリス80.0%、スウェーデン74.1%で、日本は45.1%です。「自分には長所があると感じている」という設問には、アメリカ88.7%、韓国74.2%、イギリス87.9%、スウェーデン72.7%で、日本は62.3%。「自分の親から愛されている（大切にされている）と思う」には、アメリカ88.7%、韓国84.5%、イギリス86.8%、スウェーデン82.4%で、日本は79.0%で、いずれも最下位です。

両調査は、実施時期も対象も異なるため、相関関係を論じることは困難です。意識調査には、それぞれの国民性が反映されることもまた事実です。しかしながら、本号で取り上げたデータは、親が我が子进行评估する「ものさし」を複数もち、よさや可能性を多面的・多角的に捉えることの大切さと、子どもの自尊感情を育むには家庭との連携が不可欠であることを、改めて認識させてくれます。

